# 取扱説明書

KAWAI

このたびは カワイ幼児用電子ピアノ EP 200 を
お買い上げいただきまして 誠にありがとうございます。

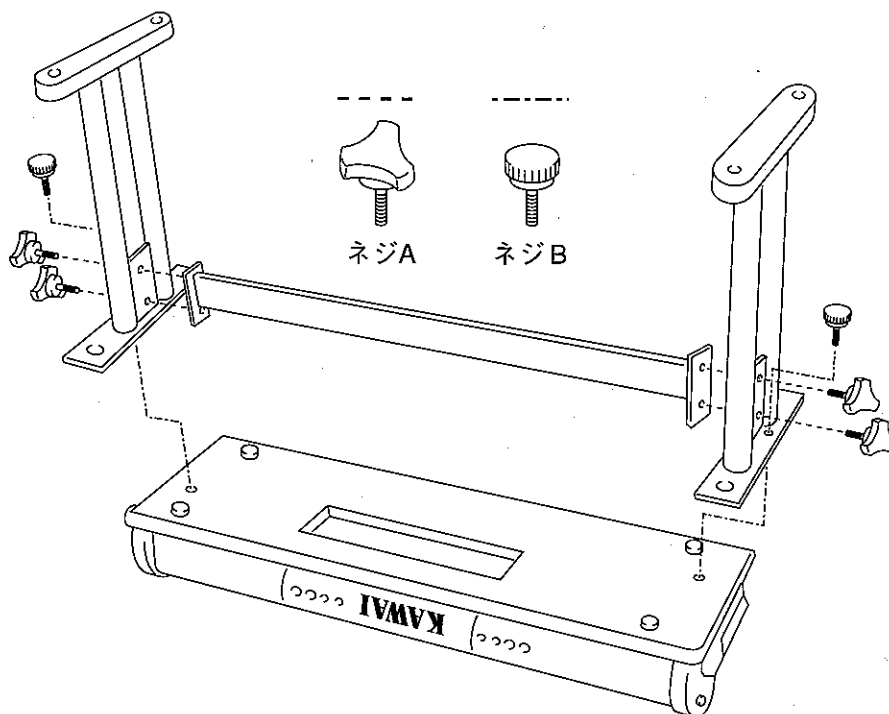
< EP 200 > は特に 幼児向教育用ということを考えてカワイが開発した、これから音楽を始めようというお子様に最適なキーボードです。
< EP 200 > の演奏にあたりましては、この取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後も保管し、わからない点がでてきた都度ご利用ください。

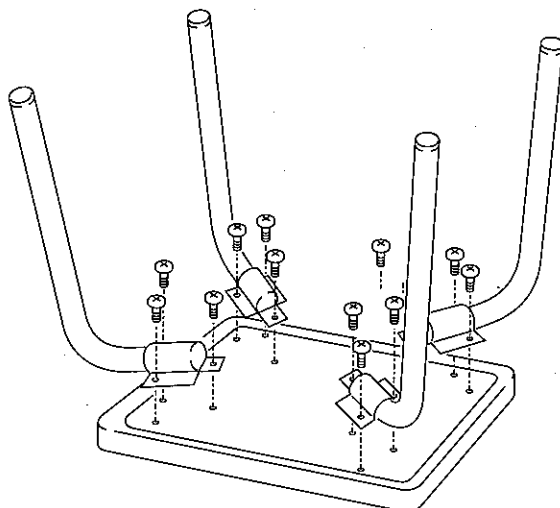
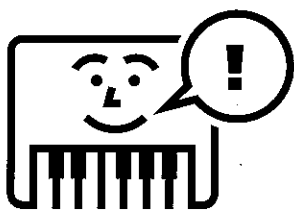
## 目次

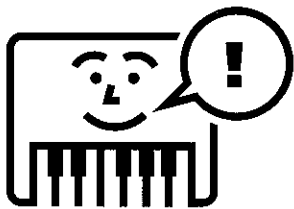
# スタンド, 椅子の組み立て方

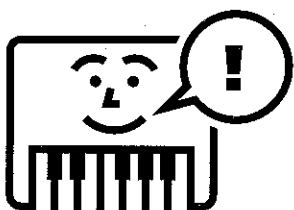
下の図を見て組み立てて下さい。

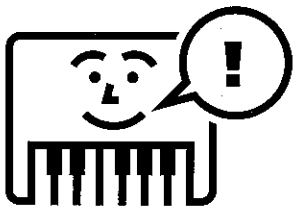
■ スタンド

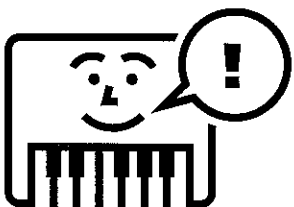
* 2種類のネジ(A, B)があります。間違えないように注意してください。
* まず、ネジAを使ってスタンドを組み立てた後、ネジBで本体に取付けて下さい。

■ イス

* 組み立てには付属のドライバーを使用します。
* 1本の足につき3本、計12本のネジで足を取付けて下さい。

# EP 200 の主な特徴

## PCM音源によるリアルな音色

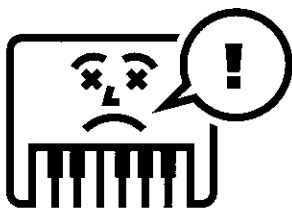
EP 200 には PCM音源による本物の楽器に近い音色が内蔵されています。
これらの音色は単に音がよいだけでなく、音感を養うことを大切に考え音程感のはっきりしたものになっています。

## 豊富な音色群

音色数は 23 と豊富なため、独奏はもちろんアンサンブル演奏では特に幅広い演奏効果がえられます。

## わかりやすい表示

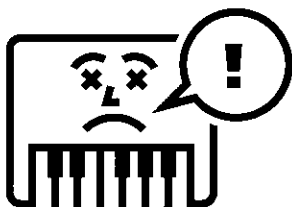
音色ボタンの表示にはカタカナ文字と一緒に楽器の絵を採用。わかりやすい表示としました。

## 簡単な操作

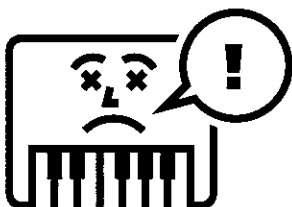
操作方法は出来る限りシンプルにしました。お子様はもちろん、はじめてキーボードにさわるような方でも簡単に演奏が楽しめるようになっています。

## デスクおよび鍵盤蓋

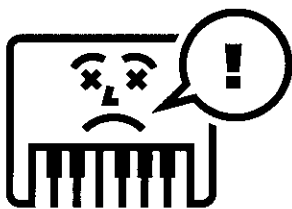
EP 200 についている鍵盤蓋は、蓋としての役目の他に、蓋を閉じたときにはデスク、蓋を開けたときには譜面立ての働きもします。

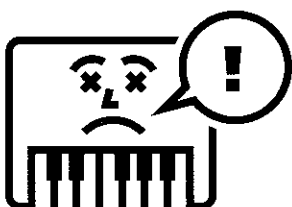
# ご使用上の注意

## 設置場所について

次のような場所でのご使用は故障の原因となりますのでご注意下さい。

- 直射日光のあたる場所
- 極端に温度、湿度の高い場所
- 日中の車内
- 砂やホコリの多い場所

## 雑音について

ごく近くでラジオやテレビなどを同時に使用されますと、雑音の原因となることがあります。十分離してご使用下さい。

## 取扱いについて

過度の衝撃や無理な力などを加えますと、傷や故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に重いものをおかないよう注意して下さい。分解したり、改造することは絶対にしないで下さい。

## 外装のお手入れについて

汚れは柔らかい布でふいて下さい。それでも汚れがおちないときは布を少し湿らせてふいて下さい。アルコールやシンナーは絶対に使わないで下さい。

## ご使用になった後は

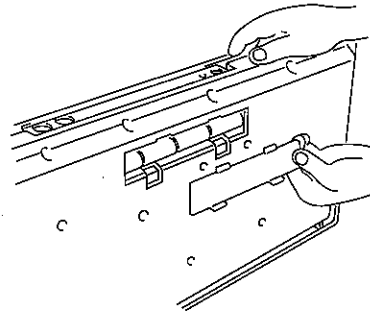
必ず電源を切って下さい。長時間電源を入れたままにしておくと思わぬトラブルの原因となります。
長い間ご使用にならないときは、アダプターをコンセントから抜き乾電池を取り出して下さい。

# ご使用の前に

## 電源と接続

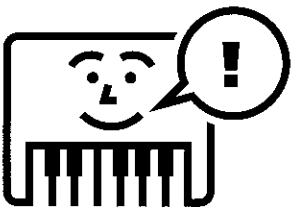
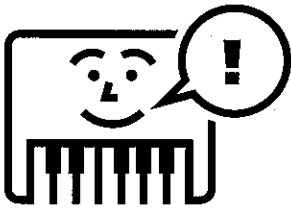
EP 200は家庭用コンセントと乾電池の両方で使えます。

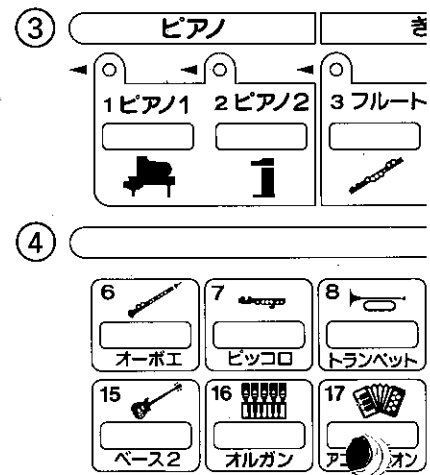
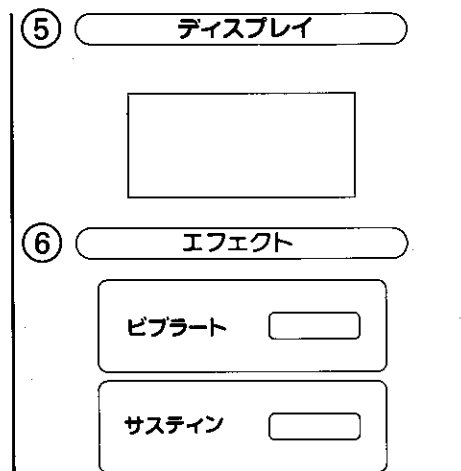
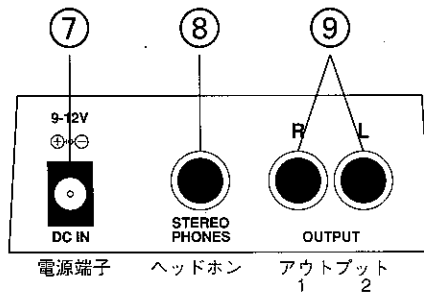
■ 乾電池を使う場合

1. 本体を裏返しにして、電池ブタを外します。
2. 単2乾電池を6本入れます。

3. 電池ブタを閉めます。

* アルカリ乾電池の使用をお薦めします。
* 電池を入れる際は、+，－を間違えないように注意して下さい。
* 乾電池の寿命が来ると、音が変化したり正常に機能しなくなったりします。このような時は6本まとめて交換して下さい。
* 違う種類の電池を混ぜて使うと液もれ等の原因になりますのでおやめ下さい。

■ 家庭用コンセントを使用する場合

別売の電源アダプター(PS102)をリアパネルの電源アダプター接続用端子に差し込んでお使い下さい。

# 各部の名称と働き

## フロントパネル

## リアパネル

## フロントパネル上のアイテム

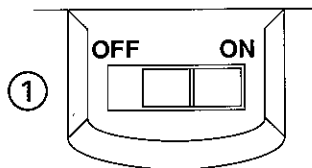
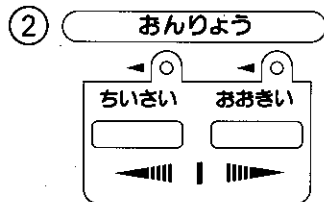
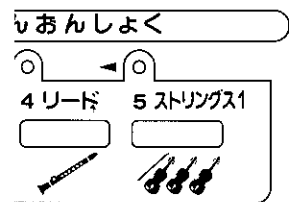
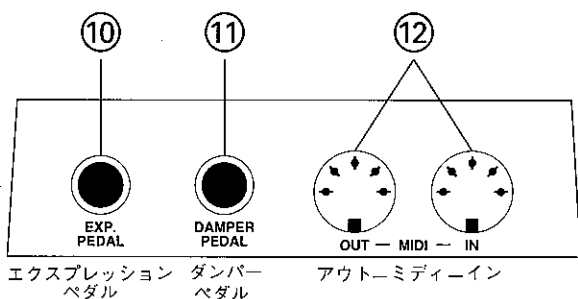
① 電源スイッチ
電源を入れたり切ったりするスイッチです。

② 音量ボタン
音量の調節をします。

③ 音色ボタン (ピアノ・基本音色)
音色のなかでも基本となるピアノ、フルート、リード、ストリングの音を選びます。

④ 音色ボタン (アンサンブル音色)
基本音色以外の音色を選ぶときは、このボタンを使います。

⑤ ディスプレイ
今どの音色を選んでいるか等の情報が表示されます。

⑥ エフェクトボタン
ビブラート：　音をふるわせます。
サステイン：　音に余韻をつけます。

## リアパネル上のアイテム

⑦ 電源アダプター端子

別売の電源アダプター(PS102)を接続します。

⑧ ヘッドフォン端子

夜間の演奏の際などは、この端子にヘッドフォンを接続すると本体のスピーカーからは音がでなくなり、周囲にきがねなく演奏を楽しむことができます。

⑨ アウトプット端子１,２

外部スピーカーやステレオにつないで音を出すときこの端子を使います。

⑩ エクスプレッションペダル端子

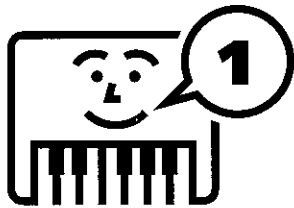
別売のエクスプレッションペダル(V-20X)を接続すると足で音量の調節ができます。

⑪ ダンパーペダル端子

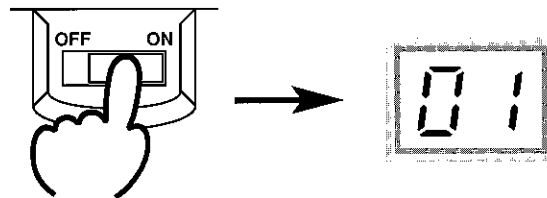
別売のダンパーペダル( F-1)を接続します。

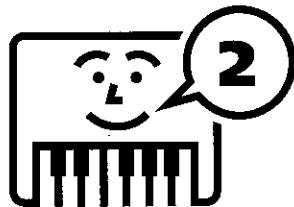
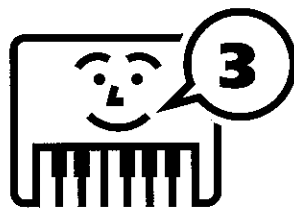
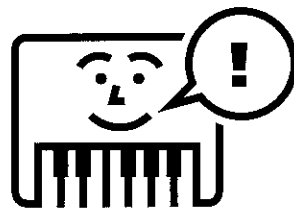
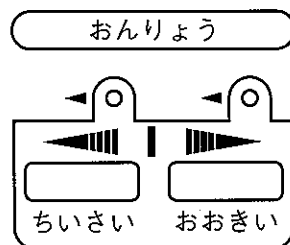
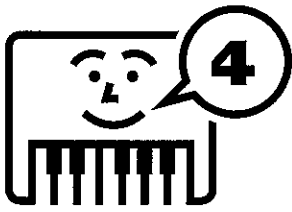
⑫ ミディ イン / アウト端子

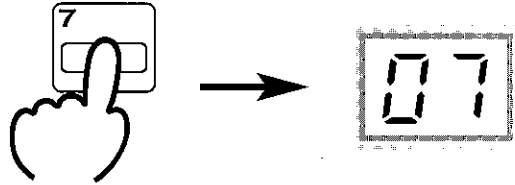
他のミディ機器と接続するときにこの端子を使います。

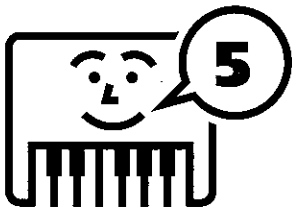
# 操作方法（1）

## 基本機能

まず 音を出してみよう。

1. 電源スイッチをいれます。
   電源スイッチを入れるとディスプレイに01と表示されます。

電源スイッチを入れます　　ディスプレイは01となります

このとき音色はNO.1 ピアノ 1 が選ばれています。

2. 鍵盤を押えてみましょう。
   ピアノ 1 の音がでてきましたね。

3. 音量の調節をしましょう。
   鍵盤を弾きながら音量の調節をしてください。"おおきい"のボタンを何度か押していくと音は大きくなります。"ちいさい"のボタンを何度か押していくと音は小さくなります。

* 音量は 1 -- 16 の間で調節することができます。
* "ちいさい","おおきい"のボタンの上のちいさなランプは、電源 ONのときに両方が点灯し、それよりも音を大きくすると"おおきい"の上のランプが、音量を小さくすると"ちいさい"の上のランプが点灯するようになっています。

4. 音色を選びます。

EP 200 には、ピアノ・基本音色 5 音色とアンサンブル音色 18 音色の計 23 音色が入っています。音色ボタンを押して音色を選んでみましょう。音色の番号はディスプレイに表示されますので、自分がどの音色を選んでいるかを見ることができます。

No.7 ピッコロの音色を選びます

ディスプレイは07
となります

5. 音色に効果を加えてみよう

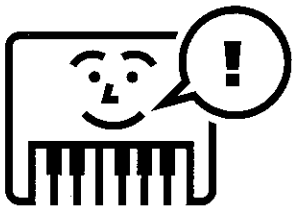
ディスプレイの下にエフェクトのボタンが2つあります。
この2つのボタンは音色に効果を加えたいときに使います。

■ ビブラート

弾いた音をふるわせます。
ストリングス 2 などの弦楽器系統の音に使うと効果的です。

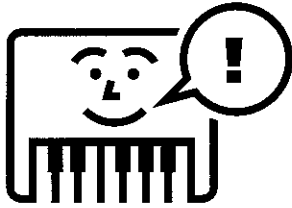
■ サスティン

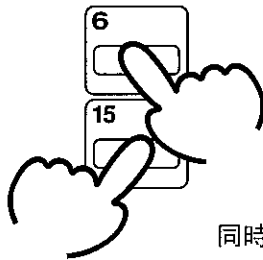
サスティンスイッチを押すと音に余韻を加えることができます。色々な音色でためしてみてください。

* ピアノ 1・2 にはビブラート、サスティンは、かかりません。

エフェクトのボタンは一度押すと ON になります。
ディスプレイには 一瞬 on と表示されます。
エフェクト効果を切りたいときはもう一度ボタンを押します。
ディスプレイには 一瞬 oF と表示されます。

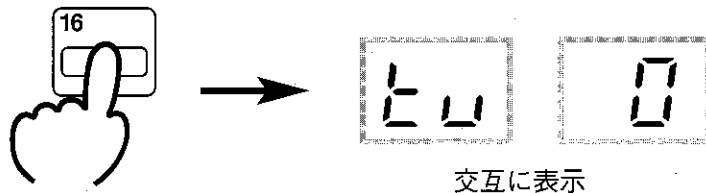
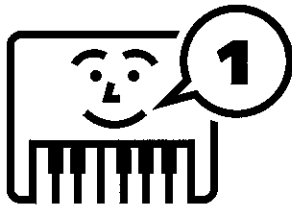
# 操作方法 (2)

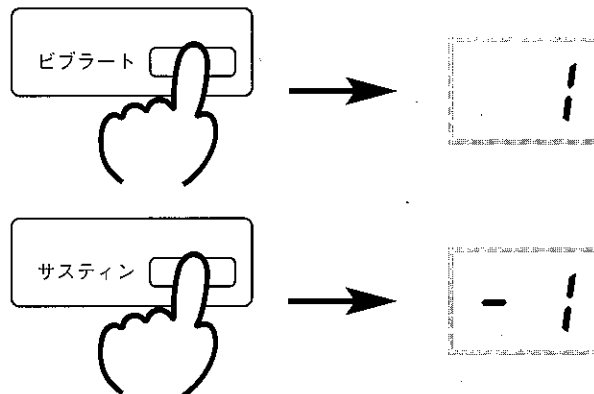
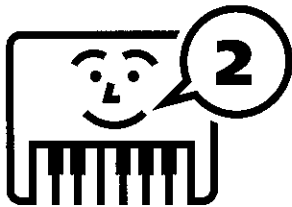
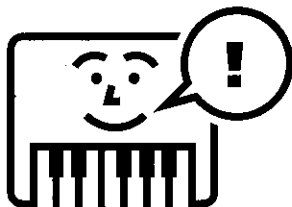
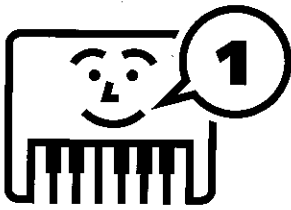
## システムモード

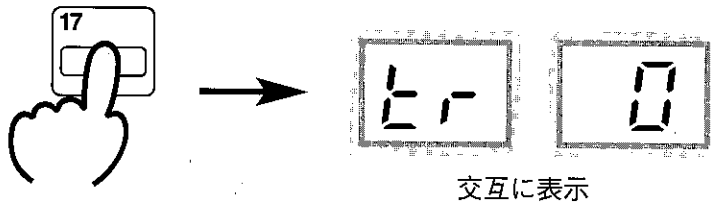
システムモードでは以下の設定ができます。

■ チューン：　他の楽器とアンサンブルをする時に音の高さ（ピッチ）をあわせます。
■ トランスポーズ：　移調するときに使います。
■ MIDIチャンネル：　MIDIの送受信チャンネルを設定します。

NO.6 オーボエ とNO.15 ベース2 のボタンを同時に押すとシステムモードに入ります。

同時に押します

■ チューンの設定

1. システムモードに入ってから NO.16 オルガン のボタンを押すとディスプレイは tu と 0 が、交互に表示されます。

交互に表示

2. ここでビブラートボタンを押すとディスプレイは 1 となり少しピッチが上がります。サスティンのボタンを押すと数字は -1 となりピッチは下がります。

＊ チューンは -8 から 7 の間で調節できます。

■ トランスポーズの設定

1. システムモード時に NO.17 アコーディオンのボタンを押すとトランスポーズの設定ができます。ディスプレイには tr と 0 が交互に表示されます。

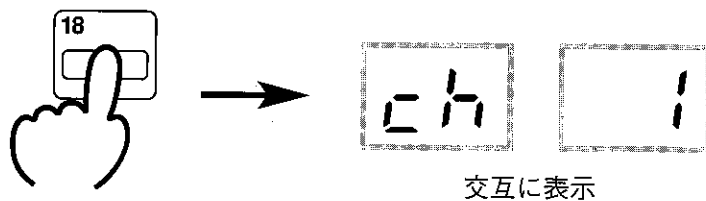
交互に表示

2. ここでビブラートボタンを押すとディスプレイは 1 となり、半音音程が上がります。サスティンボタンを押すと数字は -1 となり、半音音程が下がります。

* トランスポーズは上下 1 オクターブ ( -12 から 12 ) まで変えることができます。

■ MIDI チャンネルの設定

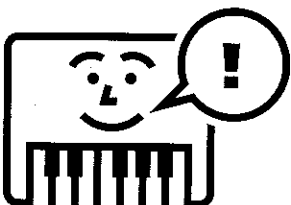
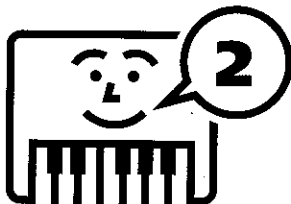
MIDI についての説明は本書の MIDI 機能のところをお読みください。
ここでは MIDI チャンネル設定の方法についてのみ説明します。

1. システムモード時に NO.18 パーカッション 1 のボタンを押すとディスプレイには ch と 1 が交互に表示されます。

交互に表示

2. このディスプレイの数字が MIDI チャンネルを表していますので、数字を増やしたいときはビブラートボタン、数字を減らしたいときはサスティンボタンを使い、MIDI チャンネルの設定をします。

* MIDI チャンネルは 1 から 16 の間で設定可能です。

音色 NO. 1 ピアノ 1 のボタンを押すと、システムモードから抜け出すことができます。

その他、システムモードで使用している以外のボタンを押しても、システムモードから抜け出すことができます。

# MIDI 機能

MIDI (ミディ) とは Musical Instrument Digital Interface の略称で、電子楽器どうしを接続する世界統一規格のことです。電子楽器やコンピューター等MIDI 端子がついていればお互いの演奏情報を交換することができます。

## EP 200 の MIDI 情報

■ 鍵盤情報 ( どの鍵盤を弾いたかという情報 ) の送受信

■ プログラムチェンジ ( 音色番号 ) 情報の送受信

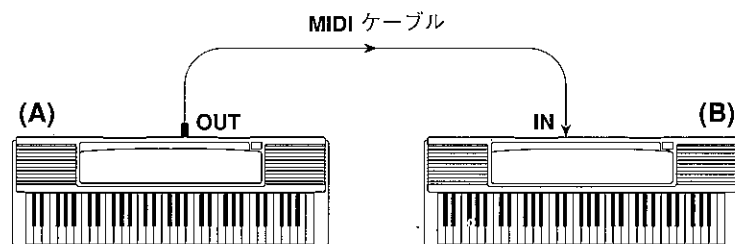
■ コントロールチェンジ情報の送受信

## EP 200 のMIDI チャンネル

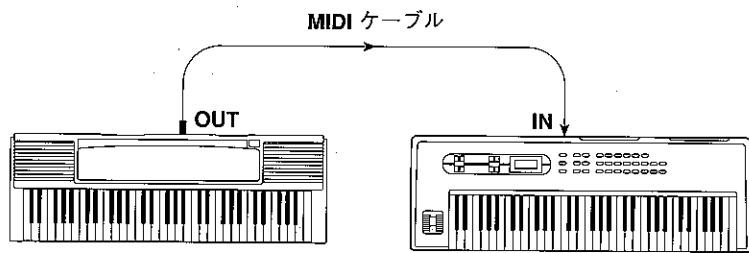
MIDI には 1 -- 16 までのチャンネルがあり、送信側のチャンネルと受信側のチャンネルが一致しているときにのみ、MIDI 情報は伝達されます。EP 200 では 2 つの MIDI チャンネルを持っています。いま、そのうちのひとつを N チャンネル、もうひとつを N+1 チャンネルと呼びます。EP 200 では MIDI 情報 を 2 つのチャンネルで同時に受け 2 パートを同時に鳴らすことができますが、その場合のMIDI チャンネルは N , N+1 となります。N+1 チャンネルは N チャンネルを変化させることによって自動的に変化します。例えば N ch を 5 に設定した場合 N+1 ch は 6となり、5 ch と 6 ch で同時にMIDI 情報を受けることになります。

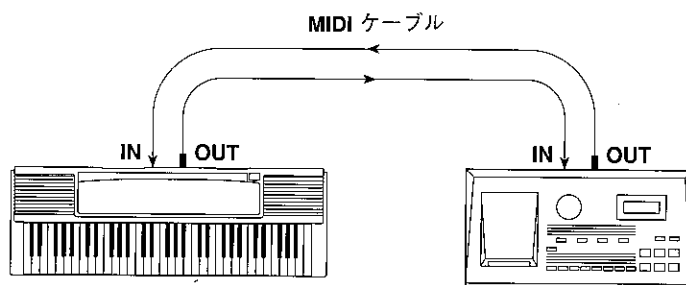
* 電源スイッチを入れたとき、Nチャンネルは 1 に設定されています。
* 具体的な設定の方法は MIDI チャンネルの設定 (P.9) を参照して下さい。

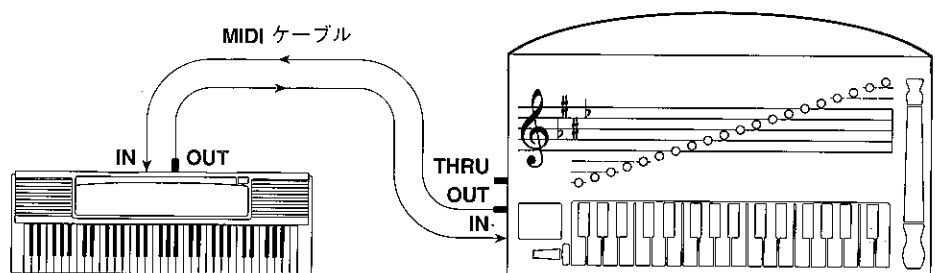
## 簡単な接続例

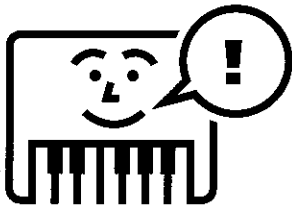
■ EP 200 と EP 200 をつなぐ

上の図のように (A) の MIDI OUT と (B) の MIDI IN を MIDI ケーブルで接続します。

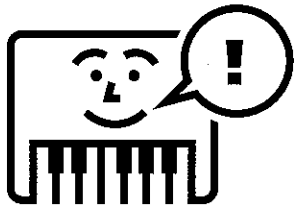
(A) を演奏するだけで、(B) からも音がでます。

■ EP 200 と他のキーボードをつなぐ

図のように EP 200 を MIDI 端子付の他のキーボード(シンセサイザー、電子オルガン等) または音源モジュールとつなぐと、EP 200 を演奏することにより、そのキーボードや音源モジュールから音を出すことができます。

■ EP 200 とシーケンサーをつなぐ

図のように、EP 200と Q-80 , Q-50 などのシーケンサーを接続すると、EP 200 の演奏を録音することができます。
また、EP 200 ではシーケンサーをつなぐことにより 2 パートの同時再生をすることができますので、ピアノの右手と左手を別々に録音し同時に再生したり、ピアノとフルートの二重奏を楽しんだり、といったことができます。

■ EP 200 とミュージックディスプレイ(KMD-100)をつなぐ

EP 200 の MIDI IN , OUT の各端子を、KMD-100 の MIDI OUT , IN 端子に接続します。
EP 200 の鍵盤を押すと KMD-100 上の該当箇所のランプが点灯しますので、音楽を楽しく学ぶことができます。

# 仕様

| | |
|---|---|
| 鍵盤数 | 61標準鍵盤 |
| 同時発音数 | 14 音 |
| 音色数 | ピアノ・基本音色 : 5<br>アンサンブル音色 : 18 |
| エフェクト | サスティン , ビブラート |
| システムコントロール | チューン , トランスポーズ , MIDI チャンネル |
| メインアンプ | 5 w x 2 |
| スピーカー | 12 cm x 2 |
| 外部端子 | ヘッドフォン端子 , エクスプレッションペダル端子 , アウトプット端子 1 / 2 , MIDI 端子(IN / OUT) , ダンパーペダル端子 , 電源アダプター端子 |
| 定格電源 | DC 9 V -- 12 V : 単 2 乾電池 6 本<br>電源アダプター (別売 : PS102) |
| 寸法 (W x D x H) | 980 x 323 x 584 mm (スタンド組立て時) |
| 重量 | 9.9 kg |
| 付属品 | 取扱説明書 , 保証書 |

# 保証について

1. この商品は保証書付きです。保証書は販売店で所定事項を記入してからお渡ししますので、記載内容をご確認の上、大切に保管して下さい。保証期間は、お買い上げの日から 1 年間です。

2. 保証期間中に修理を依頼されるとき
もう一度、本書をよくお読みいただき、ご確認いただいた上でなお異常のあるときは、お求めの販売店に修理を依頼されるか直接弊社へお送り下さい。
保証書の記載内容に基づいて、修理させていただきます。

3. 保証期間経過後に修理を依頼されるとき
保証期間が過ぎますと、修理は有償になります。

4. その他、アフターサービスについてご不明な点は、お求めの販売店、または弊社ＳＫ事業部までお問い合わせ下さい。

株式会社　河合楽器製作所　ＳＫ事業部

〒430 静岡県浜松市寺島町200
TEL 0534 (57) 1295

1 2

KAWAI 幼児用電子ピアノ

Model : EP-200

# MIDI Implementation Chart

Date : Dec. 1990

Version : 1.0

| Function. . . | | Transmitted | Recognized | | Remarks |
|---|---|---|---|---|---|
| Basic Channel | Default<br>Changed | 1<br>N | 1<br>1 – 16 (N) | 2<br>1 – 16 (N + 1) | |
| Mode | Default<br>Messages<br>Altered | 3<br>X<br>************* | 3<br>X<br>********* | 3<br>X<br>********* | |
| Note Number | <br>True Voice | 24 – 108<br>************* | 0 – 127<br>24 – 108 | 0 – 127<br>24 – 108 | |
| Velocity | Note ON<br>Note OFF | X 9n v = 127<br>X 9n v = 0 | ○<br>X | ○<br>X | |
| After Touch | Key's<br>Ch's | X<br>X | X<br>X | X<br>X | |
| Pitch Bend | | X | ○ | ○ | |
| Control Changes | 1<br>7<br>100, 101 | ○<br>○<br>X | ○<br>○<br>○ | ○<br>○<br>○ | Modulation *<br>Volume<br>System Tune |
| Prog Change | <br>True # | ○<br>0 – 22 | ○<br>0 – 22 | ○<br>0 – 22 | ** |
| System Exclusive | | X | X | X | |
| Common | : Song Pos<br>: Song Sel<br>: Tune | *************<br>*************<br>************* | *********<br>*********<br>********* | *********<br>*********<br>********* | |
| System Real Time | : Clock<br>: Commands | *************<br>************* | *********<br>********* | *********<br>********* | |
| Aux Messages | : Local ON/OFF<br>: All Notes OFF<br>: Active Sense<br>: Reset | *************<br>*************<br>*************<br>************* | *********<br>*********<br>*********<br>********* | *********<br>*********<br>*********<br>********* | |
| Notes | | * Modulation = Vibrato Depth<br>** 22以降は22 | | | |

Mode 1 : OMNI ON, POLY　　Mode 2 : OMNI ON, MONO

Mode 3 : OMNI OFF, POLY　　Mode 4 : OMNI OFF, MONO

○ : Yes
X : No

# 音楽教室の先生方へ

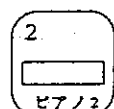
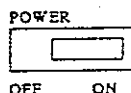
## —— EP 200 の取扱いについて ——

### 1 ティーチングモードについて

ティーチングモードとは、ピアノ・基本音色 NO.1 -- NO.5 のみが選択できる状態のことです。
アンサンブル音色のボタンは押しても無効になります。

### 2 ティーチングモードの設定方法

EP 200 では、電源を入れる度にティーチングモードになるように設定することが出来ます。
EP 200 の音色ボタンの NO. 2 ピアノ 2 を押しながら 電源スイッチを ON にして下さい。

* 一度この操作を行なうと、以降は電源スイッチを ON にする毎に ティーチングモードになります。

◆ 他の音色 (アンサンブル音色) を選びたいときは

ティーチングモードの状態で 音色ボタンの NO.14 ベース 1 とNO.23 ガラス のボタンを同時に押すと、ティーチングモードではなくなり 基本音色以外の アンサンブル音色も選択できるようになります。

この状態は、電源を OFF にするまで続きます。
再びティーチングモードにしたいときは、本体の電源を切ってから もう一度電源を入れなおして下さい。

#### ティーチングモードの設定解除

◆ 電源を入れたときティーチングモードにならないようにするには
鍵盤の一番左側のドとミ (C1 , E1) を同時に押しながら電源スイッチを ON にして下さい。これで、電源を入れる度にティーチングモードになることはなくなります。

を押しながら POWER OFF ON 電源を ON にします。